

※本ページは採択後公開されます。

研究交流計画の目標・概要

【研究交流目標】 交流期間（最長3年間）を通じての目標を記入してください。実施計画の基本となります。（自立的で継続的な国際研究交流拠点の構築と次世代の中核を担う若手研究者の育成の観点からご記入ください。）

本交流事業の目標は、グローバルサウス諸国の視点を取り入れた新しい「グローバルサウス・スタディーズ」を確立するため、独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所を研究拠点として、アジア、中東、アフリカ諸国の間に国際的な研究ネットワークを構築することである。こうした研究ネットワークの構築を通じて「グローバルサウス」という概念を批判的に検討したうえで、実証的な地域研究の手法を用いてグローバルサウス諸国の対外行動を政治経済学的に理解することを目指す。

これまで「南」、「第三世界」と称されてきた発展途上国は、近年「グローバルサウス」と呼ばれ国際社会における存在感と影響力を増している。しかし、ウクライナ戦争、米中対立、環境問題、BRICSなどの南南協力といった世界的課題に対するグローバルサウス諸国の態度は一様ではない。そもそも、新たなラベルである「グローバルサウス」という概念の中身やその含意について、学術的にも政策的にもコンセンサスは存在しない。「グローバルサウス」が使われている文脈や目的に関するメタレベルでの分析と、政治、外交、経済など各分野における各国の行動に関する事例分析を統合することで、総体としての「グローバルサウス」を把握する。こうした研究を継続的に行うため、グローバルサウスとの国際的な研究ネットワークの構築が必須である。

上記の問題意識から、本交流事業では、特徴的なグローバルサウス外交を展開している4カ国の研究機関、①インドネシア（国家研究イノベーション庁 [BRIN]）、②マレーシア（マラヤ大学）、③トルコ（中東工科大学）、④南アフリカ（ステレンボッシュ大学）との研究ネットワークを構築する。それを通じてアジア、中東、アフリカの事例を比較分析し、グローバルサウス諸国の対外行動を総合的に明らかにする。日本側拠点機関となるアジア経済研究所にはグローバルサウスをフィールドとする研究者が100人以上所属し、現地の研究機関と長年にわたり研究協力を進めてきた。本交流事業を通じて、既存の研究ネットワークを複数国にまたがる地域横断的な研究ネットワークに発展させ、グローバルな「グローバルサウス・スタディーズ」の研究ネットワークを構築する。

次世代の研究者にとって、今後も存在感を増すグローバルサウスを理解することは必須である。本交流事業を通じてグローバルサウス研究のアプローチを若手研究者が獲得することを促す。アジア経済研究所は毎年同地域をフィールドとする若手研究者を採用しているうえ、他大学の若手研究者との共同研究を実施しており、将来グローバルサウス・スタディーズの中核を担う研究者を育成する環境が整っている。

【研究交流計画の概要】 我が国と交流相手国の拠点同士の協力関係に基づく多国間交流として、どのように①共同研究、②セミナー、③研究者交流を効果的に組み合わせるかを、研究交流計画の概要を記入してください。

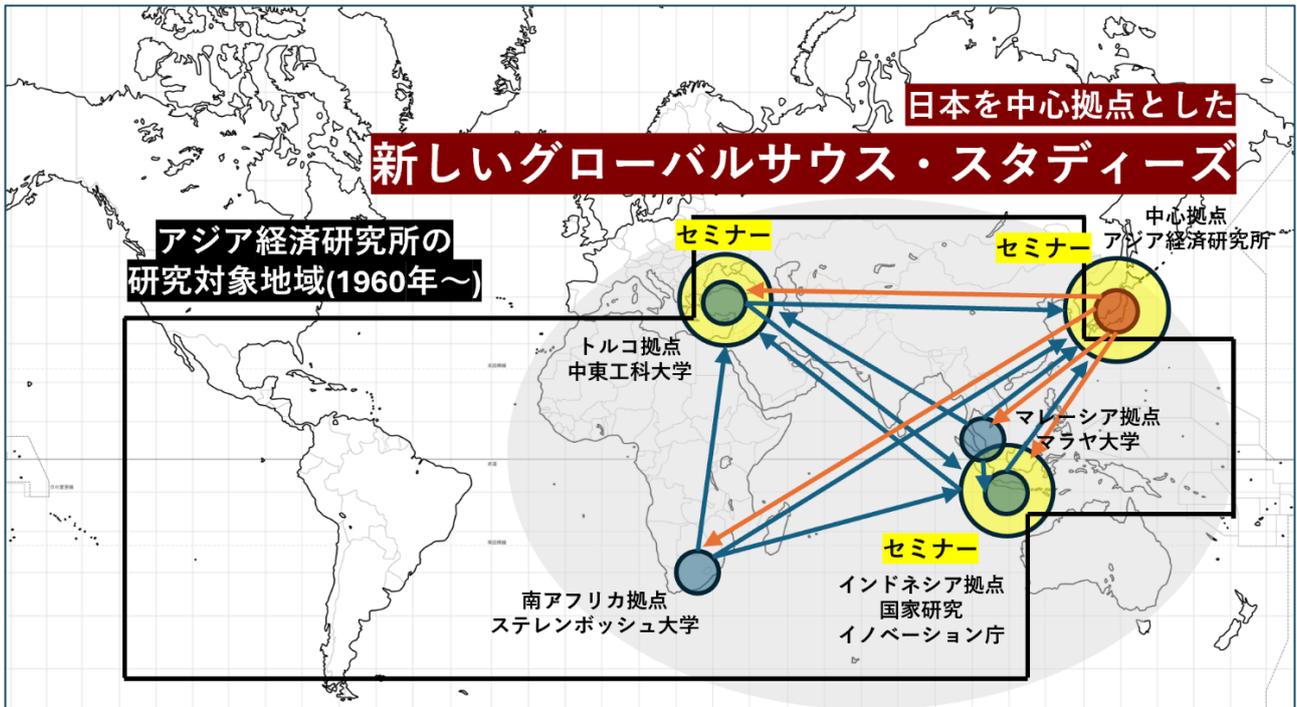
①共同研究：対外行動におけるグローバルサウスの位置づけや対外行動とグローバルサウス認識の関係といったテーマに関して、文献調査に加え、外交当局、知識人層、経済界、市民社会など幅広い関係者に対してインタビューやアンケートを用いて共同の現地調査を行う。

②セミナー：共同研究の成果をもとに、初年度に各国のもつ「グローバルサウス」概念の相違をあぶり出し、その統合の可能性を議論する研究会合とセミナーを開催する。2年度目は、その議論を踏まえて、グローバルサウスの文脈で表れる各国の対外行動を議論する研究会合・セミナーを開催する。最終年度は、2年間の研究成果を踏まえ、日本とグローバルサウスの関係を議論するシンポジウムを日本で開催する。

③研究者交流：グローバルサウスの国同士の研究交流が少ない現状に鑑み、共同研究やセミナーの開催を通じてこうした国々の研究者が交流するハブに日本になることを目指す。とくに、若手研究者育成のために、グローバルサウスの若手研究者を日本に招聘し、日本国内の大学の研究者を交えてネットワークを確立する。

※本ページは採択後公開されます。

[実施体制概念図] 本事業による経費支給期間（最長3年間）終了時までには構築する国際研究交流ネットワークの概念図を描いてください。



- 共同研究 各国の対外行動の分析による新しい「グローバルサウス・スタディーズ」の確立
 - ・令和7年度 「グローバルサウス」概念の整理と認識の比較
 - ・令和8年度 新たな国際秩序とグローバルサウスの対外行動
 - ・令和9年度 グローバルサウスと日本:南南・南北間の新たな協力関係
- セミナー 成果発表と研究者交流(日本からの若手研究者の派遣を含む)
- 研究者交流 相手国の若手研究者を日本に短期招聘

多国間の継続的対面交流を通じた研究ネットワークの構築と各国研究拠点機能の強化

		共同研究	日本拠点 →相手国拠点	セミナーでの 成果発表	相手国拠点 →日本拠点
令和 7年度	インドネシア	○		◎(参加国)	◎(研究者招聘)
	マレーシア	○	◎(1:1 研究会合)	◎(参加国)	
	トルコ	○	◎(セミナー参加)	◎(開催国)	
	南アフリカ	○		◎(参加国)	◎(研究者招聘)
令和 8年度	インドネシア	○	◎(セミナー参加)	◎(開催国)	
	マレーシア	○		◎(参加国)	◎(研究者招聘)
	トルコ	○		◎(参加国)	◎(研究者招聘)
	南アフリカ	○	◎(1:1 研究会合)	◎(参加国)	
令和 9年度	インドネシア	○		◎(セミナー参加)	
	マレーシア	○		◎(セミナー参加)	
	トルコ	○		◎(セミナー参加)	
	南アフリカ	○		◎(セミナー参加)	

※◎=日本拠点との対面交流。令和9年度のセミナーは日本拠点で国際シンポジウムとして開催。

令和7・8年度には、相手国拠点とのネットワーク強化を目的として、年1回のセミナーでの成果発表や対面交流に加え、日本側拠点と各国拠点が少なくとも年2回以上対面で交流できる体制を構築